

史泉

第五十六号

シルクロードを訪ねて

シルクロードの自然	河野 通博 (1)
シルクロードの建築	山田 幸一 (25)
出土文物にみる古代技術	下間 頼一 (33)
大雁塔と小雁塔	井上 薫 (39)
西域の詩	奥村 郁三 (47)

撰州大門寺一切経抄……………末永 雅雄 (63)

明治八・九年の「奈良博覧会」陳列目録について(上)……高橋 隆博 (76)

〈資料紹介〉

玉手山七号墳採集の石製盒子……………白神 典之 (119)

昭和五十五年度 史学・地理学科卒業論文題目

(一部・二部・大学院)……………(124)

昭和五十六年度 関西大学史学会大会

日 時 昭和五十六年十二月五日(土) 午前九時十分開会

会 場 関西大学第一学舎 三号館(L・L棟) 五階視聴覚教室

【研究発表】

1 「知太政官事」再考

——その意義と変容にふれて——

山下 慎吾

2 古墳時代の方形周溝墓について

岸本 一宏

3 防人制の運用をめぐって

中西 正和

4 第二次護憲運動と護憲三派内閣について

松本 裕行

5 一九一〇年代における

農村支配の構造と役割

高島 敏彦

6 熊沢蕃山の農兵論と儒学思想

遊佐 教寛

7 ムハンマドと二大帝国の抗争について

宮崎 正直

8 エジプト初期王朝時代について

大島 一穂

9 後宮管窺

木下 正子

——宦官制の不入とキサキ観の導入——

10 年紀について

吉田 徳夫

11 ヨーロッパの鉄道事情

石川 雄一

12 和同開珎の誕生と交遷

森 明彦

13 高松塚古墳の築造と

大化二年三月甲申の詔について

北垣聡一郎

14 高校「現代社会」教科書にみる

部落差別と人権問題

井上 正一

15 中臣氏と鹿島

田中 久夫

16 天曆三年の「神祇官勘文」について

二宮 正彦

【特別講演】

二〇〇カイリ時代と日本漁業

柿本 典昭教授

【懇親会】 於法文第二会議室(会費千五百円)

彙報

◇柿本典昭教授の新任 十月一日には、昨春急逝された藪内芳彦教授の後任として、新たに地理学に柿本典昭教授が着任された。柿本教授は漁業経済地理学の権威で、主著『漁村の地域的研究』では昭和五十年に漁業経済学会賞も受賞されている。なお、お若いころ、前任地の金沢大学での助手時代に、当時主任教授であつた藪内先生の指導を受けておられたというのも奇しき因縁である。

◇大庭脩教授は、九月末をもつて本学図書館長を退任された。藪田香融教授は、十一月一日から本学大学院部長に就任された。

◇海外調査 以下、先生方の本年中の海外調査をスタート順にメモしておこう。

◇泉澄一教授は、三月四日～八日、日葡交渉史上のマカオを知るため同地を訪問。また、三月十五日～二十五日、四月二十五日～五月二日、十一月二日～七日、韓国ソウルの国史編纂委員会において対馬宗家史料を調査。

◇網干善教教授は、四月二十七日～五月十三日、インドのアジャンタ、パキスタンのガンダーラ地方の仏教遺跡を再訪。七月には関西大学第二次学術訪中団(後出)秘書長として

訪中。九月七日～十九日、北京から空路パミールを越えてガンダーラに赴き重ねて調査。

◇大庭脩教授・藤吉真澄教授・松浦章講師は四月二十日～五月四日、日本貿易史研究者訪中団として寧波―杭州―廈門―泉州を訪問。さらに大庭教授は、八月七日～九月一日、ハルビン師範大学の招待でハルビンに赴き講演後、瀋陽―北京―蘭州を巡つて木簡を調査。

◇末尾至行教授と藤本勝次教授は、文部省科学研究費の交付を受け、七月三日～十月四日乾燥地域の水利用状況の実地調査のためトルコの内陸部へ出張。トルコ政府の調査許可も得、イスタンブール大学地理学教室の協力もあつて、全行程一万七二五〇キロをミニバスで駆け巡つた。なお、本学地理学出身で現在鹿児島女子短期大学の専任講師である平岡昭利君もこれに参加した。

◇横田健一教授は、昨年にひきつづき関西大学第二次学術訪中団の団長として、秘書長網干善教教授、団員有坂隆道教授・上井久義教授はじめ、文学部川崎幸夫教授・山岡泰造教授、法学部奥村郁三教授、工学部大岩正芳教授・下間頼一教授・山田幸一教授等総勢三十二名をひきいて訪中。七月十日～二十六日、北京―大同(雲岡)―大原(天龍山)―鄭州―兗州―開封―洛陽(龍門)―上海を巡歴。

なお、本誌前半に掲げた「シルクロードを訪ねて」の諸稿は、昨年七月十三日～二十九日、横田団長のもとに上海―ウルムチ―トルファン―敦煌―酒泉―蘭州―西安を訪ねた西域地区学術訪中団団員中の玉稿である。

◇河野通博教授は、織田武雄前教授を顧問とする西日本人地理学者訪中団の団長として七月十六日～三十一日、北京―ウルムチ―トルファン―蘭州―西安―鄭州―開封―上海を巡見。中国科学院地理研究所、同水河ソンドラ研究所、同砂漠研究所、新疆地理研究所や北京大学等各地の地理学者と交流を深めた。

史泉 第五十六号

昭和五十六年十一月二十日 発行

大阪府吹田市千里山

編集兼
発行者
関西大学史学会

振替大阪二六〇一六番

大阪市生野区桃谷五一三―三

印刷所
株式会社 聚文堂

電話代大阪(七二二)六七〇九

神功皇后伝説の研究

塚口義信 著

大帯日亮考、神功皇后伝説の形成とその意義、書紀応神天皇即位前案の「一云」、香椎廟の創建年代、継体天皇と息長氏、佐紀盾列古墳群、神功皇后の出自系譜、武内宿祢伝説の形成など。
二八〇〇円 下 三〇〇円

日本古代と唐風美術

齊藤 孝 著

鏡と仏像に二大別して、孝謙天皇勅願鏡、奈良時代唐式鏡の歴史的意義などを前に、唐招提寺派木彫群の解明を中心とした諸論を後に、東寺観智院五大虚空藏菩薩考、狛坂寺跡磨崖仏私見等、八編
三六〇〇円 下 三〇〇円

日本洋学史の研究 I-VI

有坂隆道 編

- I集 福岡藩の洋学(井上忠)、大阪の洋学(有坂)、間重富(末中哲夫)、辻蘭室(山本四郎)、『星学手簡』(有坂) 三四〇〇円 下 三〇〇円
- II集 親式実験(有坂)、玄白(山崎彰)、洋風画の前後期(成瀬不二雄)、江漢の画と蘭書(菅野陽)、『独笑妄言』(有坂)、小森挑場(山本)、『香密原本』(島尾永康)、洪庵の一面(上田穰)、江馬元益(末中) 三二〇〇円 下 三〇〇円
- III集 秋田蘭画と江漢(成瀬)、『職人ブック』、『シヨメル』(菅野)、『天地二球用法国名』(海野一隆)、大槻玄沢(山崎)、江戸期の望遠鏡(有坂)、藤林普山(山本)、『新論の世界地理(上田)』、『種痘と石州』(松本直樹)、『洪庵夫人(玄野強)』、『古西義磨』、『在村蘭方医(田崎哲郎)』 三二〇〇円 下 三〇〇円
- IV集 徂徠と医学(浅井允忠)、『徂徠と蘭学(山崎)』、『江漢と陶磁器(成瀬)』、『江漢』、『おらんだ俗話』(菅野)、『漂流民津大夫と地図(海野)』、『在村蘭学研究序説(田崎)』、『緒方郁蔵と独笑軒塾(古西)』、『大阪倉密局(上田)』 三〇〇〇円 下 三〇〇円
- V集 洋画以前の江漢(成瀬)、『江漢の種痘伝法と天球図(菅野)』、『シールドと日本辺海略図(海野)』、『小石元瑞の日省簿(山本)』、『幕末大和の牛痘法(浅井)』、『神田孝平の数学観(田崎)』、『寛政期麻田流(学)家(有坂)』 三〇〇〇円 下 三〇〇円
- VI集 オランダ(ヘスリンク)、『洋風文化(上田)』、『蘭学の前提(山崎)』、『富士図(成瀬)』、『天地理譚』(菅野)、『蟠桃(有坂)』、『除痘館(古西)』、『種痘弁』(浅井)、『牛痘法(田崎)』、『田中不二麻呂(基上)』 三〇〇〇円 下 三〇〇円

日本古墳文化論

W・ゴードン著

上田宏範校注 稲本忠雄訳

明治五年にお雇い外国人として大阪の造幣局に赴任したゴードンは、十六年間の滞日中に四〇〇基の古墳を調査した。ゴードンの主論文を翻訳、注、解題、伝記を併載。現在調査不可能の古墳も多く、当時の写真三十余(図版六十余)と共に貴重な記録。収録論文は、●日本のドルメンと埋葬墳 ●日本の初期天皇陵とドルメン ●日本のドルメンとその築造者 ●朝鮮のドルメンと遺物 ●日本の諸金属と金属工業
A5判三六〇頁上製 定価四三〇〇円 下 三〇〇円

邪馬台国基本論文集

全3巻 佐伯有清編

明治の内藤湖南、白鳥庫吉の論争以来の論文を並び九十余編を網羅して、すべて全文を掲げ、これまで入手しにくかった研究者にも、邪馬台国関係論文を通観できる。発表年次順に配列し、各巻に編者の解説を付した。1、2巻好評発売中。
A5判平均四五〇頁上製 定価各五〇〇〇円 下 三〇〇円

邪馬台国研究総覧

三品彰英編著

最も正確な倭人伝本文(魏略、太平御覧)所引魏志併記、注解、主要論文の要約など。
A5判上製 定価四〇〇〇円 下 三〇〇円